高崎健康福祉大学大学院
保健医療学研究科　理学療法学専攻

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

目　　次


1　新組織の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　人材需要の社会的な動向等　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

3　学生確保の見通し　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

4　新設組織の定員設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

# 学生確保の見通し等を記載した書類

## １．新組織の概要

（１）新組織の概要

今回設置を計画している保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程は、平成 30 年（2018 年）に設置された保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程を母体とし、多様化する現代社会の保健医療の課題に柔軟かつ創造的に対応できる高度専門職業人や研究者を養成することを目的とする。

本研究科博士後期課程の設置に合わせ、現在設置している理学療法学専攻「修士課程」を「博士前期課程」に名称変更する。

本博士後期課程の入学定員は２名、収容定員は６名とする。なお、名称変更する博士前期課程の入学定員３名、収容定員６名に変更はない。

研究科：保健医療学研究科（変更なし）
専　攻：理学療法学専攻 博士前期課程（現「修士課程」から名称変更）
　　理学療法学専攻 博士後期課程（新設）

| 新設組織 | 入学定員 | 収容定員 | 所在地 |
|---|---|---|---|
| 高崎健康福祉大学大学院<br>保健医療学研究科<br>理学療法学専攻博士後期課程 | ２名 | ６名 | 群馬県高崎市中大類町 27 |

（２）新設組織の特色

１）養成する人材像、学位の分野を踏まえた新設組織の特色

大学院博士後期課程では、建学の理念である「人類の健康と福祉に貢献する」を理解し、社会情勢で変化し多様化する国内外の保健・医療・福祉のニーズに対応できる、高い倫理観と幅広い視野を持った高度専門職業人、創造性豊かな研究者、教育と研究能力を備えた指導者、知識基盤社会を多様に支える知的人材の人材養成を目的とし、理学療法学に関わる研究を通してエビデンスを確立し、それを広く国内外に発信し、リハビリテーションシステムを改善することができる実践的応用能力を備える高度専門的職業人を養成する。

①　研究に関する知識・スキルをもち高い倫理性を備えた人材を養成する

本専攻博士後期課程を修了した大学院生は、実社会において保健医療に関わる諸問題に対応する高度専門職業人、開発研究や高度な学問的研究に関わる研究者として活躍することが期待される。本専攻博士後期課程では、そうした人材が備えるべき専門知識と技能を修得し、最先端の学問成果を駆使して問題解決に貢献する能力、新たな知見を得て、その成果を世界に発信するためのスキル（論文執筆能力、プレゼンテーション能力、討論の能力等）を有する人材を養成する。また、臨床にあっては患者安全、そして研究倫理の理解と遵守などノンテクニカル

スキルの育成はリーダーとしての資質として重要なものと位置付ける。

② 保健・医療に関わる学術及び臨床教育の発展に貢献する人材を養成する

保健医療に関わる諸課題は近年ますます多様化・複雑化・深刻化しており、従来の学問成果のみでは十分に対応できなくなりつつある。このような社会情勢の中、保健・医療・福祉における新たな学問領域を切り開く専門性の高い人材は世界的に希求されており、本専攻では学際的で高度な専門教育と研究指導により、新たな時代の保健医療福祉に関わる学術領域の発展及び教育に貢献できる人材を養成する。

③ 保健・医療・福祉分野のイノベーションに貢献できる人材を養成する

これまでに経験のない高齢化と人口減少が進むわが国は、保健医療分野にとって厳しい環境にあるため、多様化する現代社会の保健医療の課題に柔軟かつ創造的に対応する能力を有する人材が求められている。そのため、本専攻では幅広い専門知識を基盤に情報収集力、論理的思考力、課題設定能力、企画力及び実行力を備え、保健・医療・福祉におけるイノベーションに貢献できる人材を養成する。

④ ローカルとグローバルの両方の視野から問題解決できる人材を養成する

近年、経済・社会のグローバル化が急速に進行し、そこで活躍するためには国際的な幅広い視野を持つ必要がある。多くの国がかかえる保健・福祉の課題は共通するものがあり、その対策は国、地域によって多岐にわたる。わが国で応用できるローカルな対策を考える上での情報は、グローバルな視点から得られる。したがって、「国際的視野を踏まえてローカルに行動する」こと、あるいは「ローカルの特性を踏まえて国際的に行動する」ことが今後ますます重要になる。本専攻では保健医療に関わる国内外の諸問題の解決に、グローバルとローカルの双方の視点を持って国際的に活躍できる人材、それを通した地域活性化の実現にリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

## ２．人材需要の社会的な動向等

（１）養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

１）国際的動向

WHO の世界保健戦略では、リハビリテーション専門職の人材の質的向上をあげている[1)]。2021 年には、「リハビリテーション・コンピテンシー・フレームワーク」の枠組みの中で示された５つの重要な能力の１つに「Research」がおかれている[2)]。このことは、リハビリテーション専門職が、研究から強固なエビデンスを確立し、またそれを広く発信し、リハビリテーションシステムを改善させることができる実践的応用能力を備えることの重要性を示している。

特に、倫理的知識、学術誌への報告、など本邦におけるリハビリテーション専門職である理学療法士が博士後期課程で修学すべき内容が明記されており、研究者マインドを兼ね備えた高度専門的職業人の養成が待望されている。

1)https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/rehabilitation
2)https://www.who.int/publications/i/item/9789240008281

２）国内の動向

少子高齢化に伴う医療介護施策の見直しを受けて、平成 26 年に医療介護総合確保推進法が制定され、地域包括ケアシステムの構築が始まっている。このような国の動きを受けて、群馬県でも効率的で質の高い医療提供体制の構築や地域包括ケアシステムの構築に向けて、平成 27～29 年度第 7 次群馬県保健医療計画、平成 30～35 年度第 8 次群馬県保健医療計画が策定、施行されてきた。令和６～11 年度、第９次群馬県保健医療計画が策定され、「リハビリテーション等の専門性を有する医師や看護師、その他の医療従事者の確保」、「保健医療従事者の質の向上」、「新任者や現任者の養成や資質の向上」を推進するとしている。これらの施策に応えるためには、従来の枠組みにとらわれず、リハビリテーションシステムを改善することができる研究能力を備え、実践的応用能力を有する高度専門的職業人の養成が求められており、群馬県知事より本学理学療法学専攻博士後期課程の設置に関する意見書を頂いている。**【資料１】**

（参照：第９次群馬県保健医療計画、第 5 章地域医療構想、第 9 章保健医療従事等の確保、
https://www.pref.gunma.jp/page/633411.html）

また、今後さらに高度化するリハビリテーション医療に対応する、高度な学術的基盤を修得し豊かな人間性と次世代を担うことができる研究能力を備えた教育者、指導者を育成し、国民保健への役割を果たす環境を創出するうえで、本学の大学院博士後期課程の設置を強く要望するとの意見を公益社団法人日本理学療法士協会より頂いている。**【資料２】**

３）地域的動向

北関東に位置する群馬県では、理学療法学関連の博士後期課程を設置している大学は２大学で、群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学領域、群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻医療科学領域の２大学のみである（表１）。しかし、いずれも複数領域の合計入学定員のため、この領域に入学できる理学療法士は非常に限られている。また、理学療法学の様々な領域の専門性に応じた研究および教育を行う大学院は、群馬県のみならず北関東地域では設置されていない。

以上の地域特性から、本大学院における理学療法学専攻博士後期課程に対する設置要請は強く群馬県医師会長及び一般社団法人群馬県理学療法士協会長より要望書を頂いている。**【資料３】**
**【資料４】**

表 1.　群馬県内における理学療法学関連大学院博士課程の対象領域と定員数

| 群馬県内大学院博士後期課程 | 定員 | 対　象　領　域 |
|---|---|---|
| 高崎健康福祉大学大学院<br>保健医療学研究科（設置予定） | ２名<br>予定 | 理学療法学 |
| 群馬パース大学大学院<br>保健科学研究科 | ２名 | 看護学、病院・病態検査学、診療放射線学、<br>臨床工学、公衆衛生学、リハビリテーション学 |
| 群馬大学大学院保健学研究科 | 10 名 | 看護学、生体情報検査学、リハビリテーション学 |

（２）中長期的な 18 歳人口等入学対象者人口の全国的、地域的動向の分析

１）全国的動向

近年の全国的動向を要約すると下記３点となり、専門的・実践的な知識や幅広い知見・視野等の獲得を目指す学部卒業者及び修士課程修了者、リカレント教育・リスキリングを望む社会人のニーズが期待される。（参考資料：中教審参考資料１関係データ集）

①大学院在学者数は、平成３年から令和５年にかけて約 2.7 倍に増えている。
②学問分野別の博士在籍者数は、「保健」分野が約４割を占めている。
③博士課程入学者は、社会人以外の入学者は平成 15 年をピークに減少しているが、社会人は増加傾向を示している。

上記の根拠として、近年、急速な少子化の進行により高等教育機関への主たる進学者である 18 歳人口は、令和５(2023)年には約 110 万人と昭和 41 年のピークから半減しており、推計どおりに進行すれば、2040 年には約 82 万人と現在の約 75%になることが予想されている。一方で、大学進学者数は昭和 41(1966)年の約 29 万人から現在の約 63 万人へと倍増しており、過去４年間(平成 30 (2018)～令和 3(2021)年度)の都道府県別・男女別の進学率の伸び率等を参考にした試算では、2040 年の大学進学者数は約 51 万人と推計されている。
（参考資料：令和６年　中教審大学分科会　資料４－１急速な少子化が進む中での在りかた）

大学院在籍者数の推移からみると、令和元年の大学院在学者数 254,621 人(内、修士課程 162,261 人、博士課程 74,711 人）に対し令和５年では 265,977 人（内、修士課程 168,706 人、博士課程 75,841 人）と微増傾向がみられる。
（参考資料：中教審参考資料１関係データ集ｐ98- ）

分野別の博士課程在籍者数では、保健分野が全体の４割(29,166 人)を占めており、保健分野の修士課程修了者の博士課程への進学率は令和元年 9.2%、令和 5 年 9.7%とほぼ横ばいとなっている。また、博士課程の入学者充足率では、保健学分野が最も高く、平成 26 年～令和２年まで 80%

以上となっている。（出典：令和５年度学校基本調査）

博士課程入学者のうち、社会人以外の入学者数は、平成 15 年度の約 1.4 万人をピークに減少し、令和５年度には約 40%減少していが、社会人及び留学生の入学者は微増傾向を示している。（参考資料：中教審参考資料１関係データ集ｐ98- ）

このような全国的動向から、専門的・実践的な知識や幅広い知見・視野等の獲得を目指す学部卒業生や修士課程修了者、リカレント教育・リスキリングを望む社会人のニーズが期待される。

２）地域的動向

2040 年～2050 年の進学率・進学者数推計結果及び 2040 年の各都道府県進学者数等推計（2021 年基準）①を参考に、全国と北関東地域（群馬・栃木・茨城）の定員充足率をみると、全国の定員充足率 81%に対し、北関東地域では 84%と若干高い推計値となっている。

また、関東甲信越地域の理学療法士養成を行っている私立大学 37 校について、令和６年度入学生偏差値と定員充足率についてみると、大学院を設置している 19 大学（修士課程のみ９校、博士課程 10 校）のうち、16 校は定員を充足している（図１）。

以上より、学部教育から大学院博士課程までの一貫した教育環境を整備することで、定員充足できると考えられる。

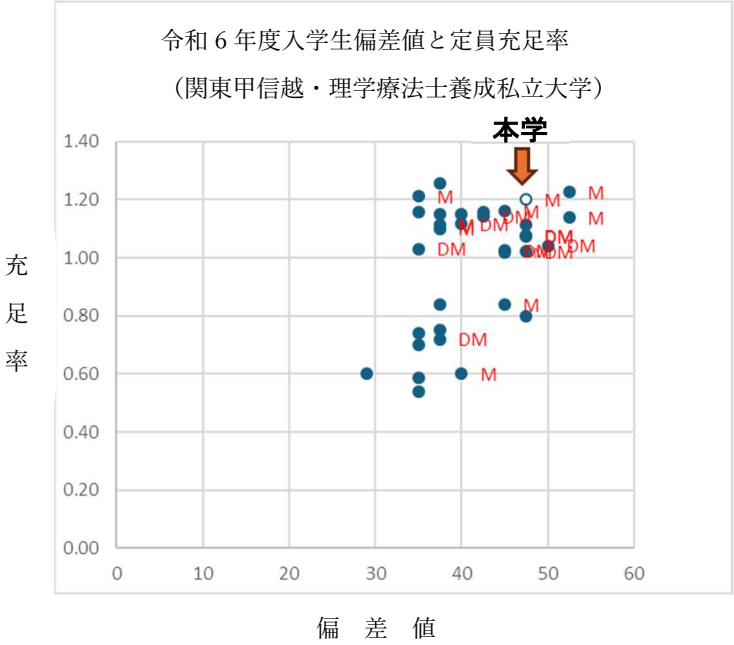


図１．　令和６年度関東甲信越理学療法士養成私立大学の偏差値と定員充足率

３）主な学生募集地域

前述した、地域的人材需要及び入学対象者の人口動向の特性から、北関東を中心とした関東甲信越地域を主な学生募集地域とする。

## ３．学生確保の見通し

１）学生確保に向けた具体的な取り組みと効果

本学大学院では学生確保に向けた取組を主にホームページ、教職員による病院・施設訪問等で行なっており、以降も継続してこれらの取組を実施していく方針である。

なお、本学理学療法学専攻修士課程は、平成 30 年（2018 年）に定員３名で開設し、**７年間で２６名の入学者を確保している。**

①ホームページ

本学のホームページは、お知らせ、ニュース、地域貢献等のイベント情報、各学部学科・研究科のページの更新速度を上げるよう全学をあげて取り組んでいる。さらに、スマートフォン向けのサイトの充実を図り、受験希望者向けに利便性の向上を図っている。

②教職員による病院・施設等の訪問

理学療法学科をはじめとする保健医療科学部各学科の実習先を中心とした病院・施設に本学の教職員が訪問し、現職の医療専門職者に向けた広報活動を行なっている。

２）競合校の状況分析と比較

①競合校の選定

競合校の選定にあたっては学校種、定員規模、学問分野、所在地等の類似性を考慮し、保健関連分野の博士後期課程を有する群馬県内の大学院２校を選定した。

②定員充足率の比較（表２）

定員充足率は、各大学でほぼ満たしているが、私立大学１校が 0.83 と未充足であった。この未充足校では、１専攻６領域の定員が２名と少ないため、志願者数が少なくなっていると考えられる。本学では、理学療法学１専攻で定員２名とするため、志願者は確保できると想定している。

表２．　競合校における博士後期課程入学者充足率（各大学ホームページ「公開情報」等より）

| 大学院 | 研究科・専攻等 | 課程 | 所在地 | 定員（名） | 過去 3 年の入学者充足率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高崎健康福祉大学大学院 | 保健医療学研究科理学療法学専攻 | 修士 | 群馬県高崎 | 3 | 1.22（修士） |
| 群馬大学大学院 | 保健学研究科保健学専攻 | 博士 | 群馬県前橋 | １０ | 1.10 |
| 群馬パース大学大学院 | 保健学研究科保健科学専攻 | 博士 | 群馬県高崎 | 2 | 0.83 |

＊本学のみ既設の修士課程で算出

③学生納付金（表３）

学生納付金等については、本学の他研究科及び既存の修士課程を参考にし、既卒社会人等の入学の便宜を図るため低額に設定した。

表３．　競合校における博士後期課程学生納付金（各大学ホームページ「公開情報」等より）

| 大学院 | 研究科・専攻等 | 課程 | 所在地 | 学費（円） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 入学金 | 授業料等 | 初年度合計 |
| 高崎健康福祉大学大学院 | 保健医療学研究科理学療法学専攻 | 博士後期 | 群馬県高崎 | 100,000 | 700,000 | 804,150（諸経費含む） |
| 群馬大学大学院 | 保健学研究科保健学専攻 | 博士後期 | 群馬県前橋 | 282,000 | 535,800 | 817,800 |
| 群馬パース大学大学院 | 保健学研究科保健科学専攻 | 博士後期 | 群馬県高崎 | 100,000 | 700,000 | 854,100（諸経費含む） |

④理学療法学領域の大学院進学希望校（図２）

後述する理学療法学領域の大学院進学希望校についてのアンケート調査では、群馬県内及びその他近隣地域の大学を含め本学が第１位（65%）であり、第２位の県内国立大学（42%）、県内私立大学（20%）を大きく上回った。

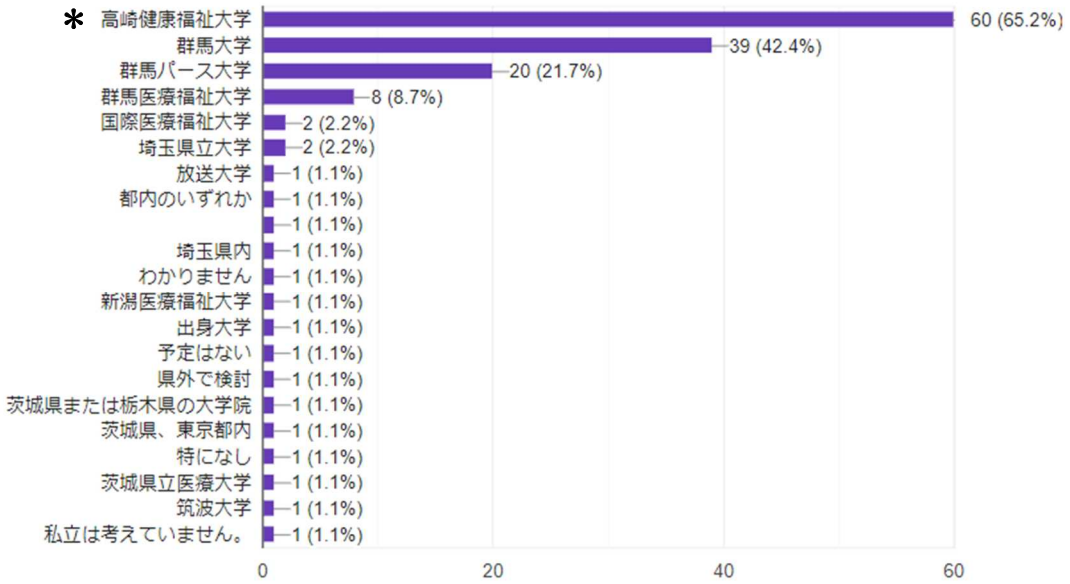


図２．　理学療法学領域の大学院進学希望校（n=92、複数回答）

３）学生確保に関するアンケート調査

本学博士後期課程理学療法学専攻への進学に関する調査を行った**【資料５】**。その概要は以下の通りであり、今回設定している入学定員２名は充足できると考えられる。

【アンケート調査結果の概要】

①群馬県内の「理学療法を専門とする」大学院に対するニーズ

「非常に必要だと思う」、「やや必要だと思う」との肯定的な回答は約 90%であった【資料５、表６，７】。

②大学院博士後期課程進学の重要度

大学院博士課程への進学は、「とても重要」または「ある程度重要」との肯定的な回答は全体で約 74%であり、その割合は修士修了者および博士修了者で高い傾向を示した【資料５、表９】。

③本学大学院博士後期課程に対する期待度

本学博士課程に対する期待度は、「大いに期待している」または「期待している」と肯定的な回答者が約 85%おり、高い期待度がうかがえた【資料５、表 11】。

④本学博士後期課程への入学希望者

「ぜひ入学したい」または「入学を検討している」と肯定的な回答者が全体の約 13%であり、実数にして 14 名であった。「ぜひ入学したい」または「入学を検討している」と回答した者は特に修士課程を本学で修了している場合には約 46%に達しており、本学で修士課程を修了した者で特に、博士課程への高い関心がうかがえた【資料５、表 12】。

【追加アンケート調査結果の概要】

対象は 28 名（理学療法学専攻修士課程修了者 24 名、理学療法学修士課程 2 年生 4 名）、回答数は 20 件（回答率：71.4%）であった。

前回調査時には、本学で修士課程を修了した者のうち、回答が得られたのは 11 名のみであったが、今回は 20 名と約２倍の回答数を得ている。博士課程への入学希望については、「ぜひ入学したい」および「入学を検討している」と回答した者が全体の 90%（18 名）を占め、特に博士後期課程設置に対する高い関心が確認された【資料５、表 15】。この結果は、前回調査時未回答だった者のうち、「ぜひ入学したい」と回答した者と、前回調査時は「入学を検討している」と回答していた者の一部が、今回の追加調査では「ぜひ入学したい」との希望に移行した可能性が考えられる。現時点で修了生および修士課程２年在学生のうち、計７名が「ぜひ入学したい」と回答しており、入学希望者が２名の定員を大幅に超えている。【資料５、表 15】

## ４．新設組織の定員設定の理由

前述した、１）新設組織の特色、２）人材需要の社会的動向から、18 歳人口の減少は避けられないものの、大学進学や高学歴化といった社会的動向や保健分野の博士課程進学者はある程度確保されている。また、３）学生確保に関するアンケート調査および追加アンケート調査結果から、本学博士後期課程の特色と入学を想定した調査対象者のニーズが合致していること、入学希望者７名、入学検討者１１名が認められたことから、中長期的な観点から入学定員を２名と設定した。

高崎健康福祉大学大学院
保健医療学研究科　理学療法学専攻

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

資　料　目　次

資料１　群馬県　大学院保健医療学研究科理学療法学専攻
博士後期課程の設置に関する意見書　・・・・・・・・・・・・・・　２
資料２　公益社団法人日本理学療法士会　理学療法士教育における
大学院博士後期課程の設置について（要望）　・・・・・・・・・　３
資料３　群馬県医師会　大学院保健医療学研究科理学療法学専攻
博士後期課程の設置に関する意見書　・・・・・・・・・・・・・・　４
資料４　一般社団法人群馬県理学療法士協会　理学療法士教育における
大学院博士後期課程の設置について（要望）　・・・・・・・・・　５
資料５　理学療法学領域の大学院進学に関する調査結果　・・・・・・・・　６

【資料 1】

# 群馬県　大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程の設置に関する意見書

医第　30143－4号

令和6年11月8日

学校法人高崎健康福祉大学

理事長　須藤　賢一　様

群馬県知事　山本　一太

（　医　務　課　）

高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻

博士後期課程の設置に関する意見書

現在、我が国では、急速な少子高齢化に伴う疾病構造の多様化、医療技術の進歩、国民の医療に対する意識の変化など、医療を取り巻く環境が大きく変化しており、患者それぞれの状態に見合った適切な医療・介護・福祉サービスを効率的に提供できる体制を構築することが喫緊の課題となっている。

こうした中、群馬県では、令和2年12 月に「新・群馬県総合計画（ビジョン）」（2021年～2040 年）を策定し、誰一人取り残さない、必要な医療・介護・福祉サービスが持続的に切れ目なく提供される体制の構築に向けた取組を重点的に推進している。

さらに、令和6年度に策定した第9次群馬県保健医療計画において、医師、看護師その他の医療従事者の確保と資質の向上に取り組んでいるところである。

今後、より実効性の高い地域包括ケアシステムを構築していくため、高度な実践力を備えた理学療法士を始めとするリハビリテーション専門職の確保・養成が求められる一方で、現在、本県において、理学療法士の大学院教育（博士課程）を行っているのは、群馬大学と群馬パース大学のみである。

高崎健康福祉大学では、平成22年度の保健医療学部理学療法学科開設から、これまで約450名の理学療法士を養成してきた。平成30年度には同大学大学院保健医療学研究科に理学療法学専攻修士課程を開設したところであり、今後、同専攻に博士課程を設け、大学院教育の一層の充実を図ることは、本県の地域リハビリテーション支援体制の整備推進に資するものと大いに期待できるものである。

【資料２】

# 公益社団法人日本理学療法士協会
# 理学療法士教育における大学院博士後期課程の設置について(要望)

日理協 24 第 303 号
2024 年 9 月 20 日

高崎健康福祉大学
理事長　須藤 賢一　様
学長　　石田 朋靖　様

公益社団法人 日本理学療法士協会
会 長　　斉藤 秀之

理学療法士教育における大学院博士後期課程の設置について（要望）

わが国における理学療法士養成教育は、1960 年代後半から専門学校にて行われ、この時期に日本学術会議から政府に対し、理学療法士教育を大学 4 年制とし大学院を附置すべきとの意見書が提出された。その後、1979 年から金沢大学へ短期大学部が加わり、1992 年には広島大学に初めての 4 年制大学が設立された。現在、群馬県内において理学療法士教育を担う 4 年制大学は 4 校あるが、専門性の高い理学療法士に特化した博士課程の養成施設は設置されていない。

理学療法士養成教育が高学歴化した背景には、リハビリテーション医療の急速な高度化、多様化に対応できる豊かな知識、研究心と応用力を持った人材育成の必要性があったものと考えられる。そして、このような高い教育を受けた理学療法士の並々ならぬ努力や研究が、理学療法の発展に大きく貢献してきた。

今後ますます発展し高度化していくと予想されるリハビリテーション医療に幅広く対応するには、さらに高い専門知識と実践力を兼ね備えた理学療法士の確保が必要不可欠である。そのためには現在の 4 年制大学の教育に加えて、大学院修士課程、博士課程において高度な学術的基盤を修得し、豊かな人間性と次世代を担うことができる研究能力を備えた将来の教育者、研究者、指導者を育成していかなければならない。

しかしながら、前述のとおり、群馬県内において現在、理学療法学に特化した大学院博士後期課程を設置している理学療法士養成 4 年制大学はなく、向学心を持った社会人の入学者、入学希望者が年々増加している傾向を考えると、保健・医療・福祉分野における専門性の高い理学療法士教育を行う大学院について、私立大学にその設置を特に期待しているところである。そして、本会としては、修士あるいは博士の学位を持つ理学療法士が数多く輩出され、将来の理学療法を先導し、国民保健への役割を果たせる環境を創出しなければならないと考えている。

よって、貴学に大学院博士後期課程を設置することを強く要望するものである。

以上

【資料３】

# 群馬県医師会　大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程の設置に関する意見書

令和６年１１月１日

学校法人高崎健康福祉大学
理事長　須藤　賢一　様
学長　　石田　朋靖　様

群馬県医師会　会長　須藤　英仁

高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻
博士課程の設置に関する意見書

平成２６年に医療介護総合確保推進法が制定され、地域包括ケアシステムの構築が始まりました。国では地域医療構想に関しても活発な議論が進められており、厚生労働省が開催する地域医療構想等に関する検討会では日本医師会も参加して本年８月には第７回の会議が実施され、入院医療、外来医療・在宅医療、介護と連携した医療提供体制が目標とされ、入院早期からのリハビリの適切な提供による生活の場への早期復帰が促されています。

群馬県ではこのような国の動きを受けて、効率的で質の高い医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築に向けて、令和６～１１年度、第９次群馬県保健医療計画が策定され、「リハビリテーション等の専門性を有する医師や看護師、その他の医療従事者の確保」、「保健医療従事者の質の向上」、「新任者や現任者の養成や資質の向上」を推進しています。群馬県医師会では、地域社会の要請に応えたリハビリテーション専門病院として「群馬リハビリテーション病院」を経営し、すでに６０年の歴史と実績を有しています。１８０床を超える病床数に対して、多職種での思いやりを持った連携体制の下、質の高いリハビリテーションを提供しています。リハビリテーション提供の中心となる理学療法士は現在、５７名を有し、群馬県内でも最も質の高い理学療法の一つを実施するとともに、公益社団法人の義務として質の高い理学療法士の育成にも力を入れており、新しい知識、技術を導入して常に最良のリハビリテーションの向上に努めていることが実感されます。高崎健康福祉大学の保健医療学研究科理学療法学専攻とは、学部生教育や共同研究を通じて技術向上や人材育成に着実に成果をあげ、その結果を患者さんのリハビリテーションに生かしております。

群馬県で理学療法士の大学院博士課程の教育を行っているのは群馬大学とパース大学のみで年間で養成される修了者は数名のみとお聞きしています。理学療法の質的向上と、上質の人材育成のためには研究能力を有し博士号を持つ理学療法士の育成が課題と言えます。平成３０年以降大学院修士課程で１９名（約４名／年）の理学療法学修士を輩出し、高い研究実績を持つ同大学の博士課程の開設に大きな期待を持つところです。

【資料４】

# 一般社団法人群馬県理学療法士協会
# 理学療法士教育における大学院博士後期課程の設置について(要望)

群理協-R6-240
2024 年 11 月 26 日

高崎健康福祉大学
理事長　須藤賢一　様
学長　　石田朋靖　様

一般社団法人　群馬県理学療法士協会
会長　　渡 辺 真 樹

理学療法士教育における大学院博士後期課程設置の要望について

謹啓、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび貴学におかれましては、理学療法士を対象とした高度専門職、研究者及び教育者を養成するため、令和 8 年度に大学院博士後期課程を設置する意向とお聞きしました。保健・医療・福祉分野での人材養成の実績を有する貴学が新たに大学院博士後期課程を設置することは、リハビリテーションの重要性がます社会情勢の中で非常に有意義であると考えます。特に、理学療法学に特化した博士後期課程の教育は県内初めてであり、より専門性の高い理学療法士が地域医療、研究、教育の質を向上させることに大いに期待するところであります。

理学療法士は、病院を中心に地域や介護する家族への指導の他、最近では予防医学に対しての助言など幅広い業務を行っております。また、学童児に対する保健指導やスポーツ分野でのメディカルサポートなど高度な技術も求められます。よって本会は、理学療法学をリードし、その発展に寄与する貴学大学院博士後期課程（博士（理学療法学））の設置を、強く要望いたします。

謹白

【資料５】

# 理学療法学領域の大学院進学に関する調査結果

理学療法学領域の大学院進学に関する調査

I. 対象

1.　高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科総合臨床実習Ⅰ臨床実習施設に所属の理学療法士
2.　高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科を卒業した者
3.　高崎健康福祉大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻を終了した者

II. 方法

1.　方式 Google form を用いたウェブアンケート
2.　調査期間：令和 6 年 9 月 1 日から 10 月 4 日（第 1 回調査）
　　：令和 7 年 6 月 2 日から 6 月 7 日（追加調査）
3.　内容
　1）クションⅠ　：アンケート概要の説明
　2）セクション II：基本属性
　3）セクション III：群馬県内の「理学療法を専門とする」大学院に対するニーズと最終学歴
　4）セクション IV：(大学院修士課程未修了者)：修士課程への認識および進学希望
　5）セクション V　：(大学院修士課程未修了者)：博士課程への認識および進学希望
　6）セクション VI：(大学院修士課程修了かつ博士課程未修了者)：博士課程への認識および進学希望
　7）セクション VII：(大学院博士課程修了者)：博士課程への認識
　8）セクション VIII：高崎健康福祉大学大学院への認識

III. 結果

1.　回答数：113 件（ウェブアンケートのため回答率の算出は不可能）
2.　基本属性

回答者は 35 歳以下が約 77%を占めた(表１)。理学療法士養成校の卒業年度から算出した理学療法士の経験年数は平均 8.5±7.2 年だった。居住地および勤務先所在地は群馬県内と近隣県が約 80%だった(表 2,3)。約 95%がフルタイムの理学療法士として勤務しており、9.7%（11 名）が理学療法またはリハビリテーション部門の責任者だった。最終学歴は準学士または学士が約 77%を占めており、修士課程修了者は約 20%だった。

表 1)年齢の構成,%(人数)

| | 25 歳以下 | 26～30 歳 | 31～35 歳 | 36～40 歳 | 41～50 歳 | 51～60 歳 | 61 歳以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| %(人数) | 23.9(27) | 36.3(41) | 17.7(20) | 10.6(12) | 8.8(10) | 2.7(3) | 0.0(0) |

表 2)居住地の構成

| | 群馬県内 | 埼玉県・栃木県内 | 上記以外 |
|---|---|---|---|
| %(人数) | 61.9(70) | 18.6(21) | 19.5(22) |

表 3)勤務先所在地の構成,%(人数)

| | 群馬県内 | 埼玉県・栃木県内 | 上記以外 |
|---|---|---|---|
| %(人数) | 63.7(72) | 17.7(20) | 18.6(21) |

表 4)勤務形態,%(人数)

| | フルタイムの理学療法士として勤務 | パートタイムの理学療法士として勤務 | 理学療法士として働いていない |
|---|---|---|---|
| %(人数) | 94.7(107) | 3.5(4) | 1.8(2) |

表 5) 最終学歴(n=113) ,%(人数)

| | 専門学校卒業（準学士） | 大学学部卒業（学士） | 博士前期課程または修士課程 修了 （修士） | 博士後期課程または博士課程修了 （博士） |
|---|---|---|---|---|
| %（人数） | 18.6(21) | 58.4(66) | 20.4(23) | 2.7(3) |

3.群馬県内の「理学療法を専門とする」大学院に対するニーズと最終学歴

理学療法を専門とする大学院の必要度は、「非常に必要だと思う」または「やや必要だと思う」と回答した者は修士課程・博士課程ともに約 90%だった(表 6,7)。当学修士課程の理学療法への貢献度は、「大きく貢献している」または「ある程度貢献している」と回答した者は約 78%だった(表 8)。

表 6) 群馬県内に理学療法を専門とする大学院「修士課程」がどの程度必要か(n=113) ,%(人数)

| | 非常に必要だと思う | やや必要だと思う | あまり必要ないと思う | まったく必要ないと思う |
|---|---|---|---|---|
| %（人数） | 28.3(32) | 61.9(70) | 8.8(10) | 0.9(1) |

表 7）群馬県内に理学療法を専門とする大学院「博士課程」がどの程度必要か(n=113) ,%(人数)

| | 非常に必要だと思う | やや必要だと思う | あまり必要ないと思う | まったく必要ないと思う |
|---|---|---|---|---|
| %(　人数) | 27.4(31) | 62.8(71) | 8.8(10) | 0.9(1) |

表 8）高崎健康福祉大学大学院修士課程の理学療法学教育への貢献度(n=113) ,%(人数)

| | 大きく貢献している | ある程度貢献している | あまり貢献していない | まったく貢献していない |
|---|---|---|---|---|
| %(　人数) | 16.8(19) | 61.1(69) | 10.6(12) | 1.8(2) |

4.大学院博士課程進学の重要度、群馬県内の定員充足度、当学博士課程への期待度および入学希望

キャリアアップにとって大学院博士課程への進学は、「とても重要」または「ある程度重要」と回答した者が全体で約 74%おり、その割合は修士修了者および博士修了者で高い傾向を示した(表 9)。

表 9）キャリアアップにとって大学院博士課程への進学の重要度,%(人数)

| | とても重要 | ある程度重要 | それほど重要ではない | まったく重要ではない |
|---|---|---|---|---|
| 全体(n=113) | 14.2(16) | 60.2(68) | 19.5(22) | 6.2(7) |
| 準学士または学士(n=87) | 12.6(11) | 60.9(53) | 20.7(18) | 5.7(5) |
| 修士(n=23) | 21.7(5) | 56.5(13) | 13.0(3) | 8.7(2) |
| 博士(n=3) | 0.0(0) | 66.7(2) | 33.3(1) | 0.0(0) |

群馬県内大学院博士課程の入学定員の充足度については「わからない」と回答した者が全体で約 59%おり、「全く足りない」または「不足している」と回答した者が約 27.7%、「足りている」と回答した者が 23%であった。「全く足りない」または「不足している」者は修士課程修了者で高い傾向を示した(表 10)。

表 10）群馬県内の大学院博士課程の入学定員の充足度,%(人数)

| | 全く足りない | 不足している | 足りている | わからない |
|---|---|---|---|---|
| 全体(n=113) | 1.8(2) | 15.9(18) | 23.0(26) | 59.3(67) |
| 準学士または学士(n=87) | 1.1(1) | 13.8(12) | 18.4(16) | 66.7(58) |
| 修士(n=23) | 4.3(1) | 21.7(5) | 34.8(8) | 39.1(9) |
| 博士(n=3) | 0(0) | 33.3(1) | 66.7(2) | 0(0) |

本学博士課程に対する期待度は、「大いに期待している」または「期待している」と回答した者が約 85%おり、高い期待度がうかがえる。(表 11)

表 11）高崎健康福祉大学 大学院博士課程設置への期待度（n=113）,%(人数)

| | 大いに期待している | 期待している | さほど期待していない | まったく期待していない |
|---|---|---|---|---|
| %<br>(人数) | 18.6(21) | 66.4(75) | 12.4(14) | 2.7(3) |

本学博士課程への入学希望者については、「ぜひ入学したい」または「入学を検討している」と回答した者が全体の約 13%であり、実数にして 14 名であった。「ぜひ入学したい」または「入学を検討している」と回答した者は特に修士課程を当学で修了している場合には約 46%に達しており、当学で修士課程を修了した者で特に、博士課程への高い関心がうかがえる（表 12)。

表 12）高崎健康福祉大学 大学院博士課程への入学希望（博士修了者を除く）,%(人数)

| | ぜひ入学したい | 入学を検討している | 入学する可能性は低い | 入学しない |
|---|---|---|---|---|
| 全体(n=110) | 2.7(3) | 10.0(11) | 45.5(50) | 41.8(46) |
| 準学士または学士(n=87)* | 2.3(2) | 5.7(5) | 43.7(38) | 48.3(42) |
| 修士(n=23) | 4.3(1) | 26.1(6) | 52.2(12) | 17.4(4) |

*最終学歴が準学士または学士の者は、博士後期課程出願には修士号の取得が必要となるため、現時点では参考値となる。

表 13）高崎健康福祉大学 大学院博士課程への入学希望者の修士課程修了大学院別集計,%(人数)

| | ぜひ入学したい | 入学を検討している | 入学する可能性は低い | 入学しない |
|---|---|---|---|---|
| 修士課程を本学で修了(n=11) | 9.1(1) | 36.4(4) | 27.3(3) | 27.3(3) |
| 修士課程を他学で修了(n=12) | 0.0(0) | 16.7(2) | 75.0(9) | 8.3(1) |

高崎健康福祉大学大学院にどのようなことを期待しますか？（自由回答）

①理学療法部門またはリハビリテーション部門責任者のコメント

- 博士育成と共にポスドクが活躍出来る場所や役割の創設をお願いします。
- 群馬の大学院は群大一択のようなイメージがあった。良くも悪くもひろい範囲の分野を群大では受け入れてくれていたが、より特化するという点と受講生の選択肢が増えるという点では大学院が増えることは良いことであり、期待したい。

②理学療法部門またはリハビリテーション部門責任者以外のコメント

- 働きながらでも通いやすい環境
- 臨床的な研究を進めて、現場のリハビリ介入に具体的な寄与ができる研究を期待しています。
- 国際的なネットワーク、海外大学との連携

ほかにご意見やご質問があればご記入ください（自由回答）

①理学療法部門またはリハビリテーション部門責任者のコメント

- 群馬大学さんがあるので、大学院はなくても良いと思います。
- 先日の理学療法群馬の巻頭言で竹内教授が記載されていた通り、理学療法士協会での専門的な分科会が増え、一方で世の中的には高齢者が増えてジェネラリストが求められている。しかし、専門領域が増えすぎてしまい、ジェネラリストを目指すにはどのように学べば良いか難しい現状にあると感じている。そのような中で「リハビリ」ではなく「理学療法」と銘打って学を深めてくださること、大いに期待したいと考える。大学院に求めることではないかもしれないが、各分野の追求のみならず各分野横断的（ジェネラリスト養成）な視点での教育もあると良いと感じている。つらつらと記載してしまい失礼しました。今後の発展を祈念しています。

②理学療法部門またはリハビリテーション部門責任者以外のコメント

- 博士課程開設予定時期について知りたい。

高崎健康福祉大学大学院で魅力（強み）だと感じる点

表 14)高崎健康福祉大学大学院の強みに関する認識の入学希望別集計

| | ぜひ入学したい (n=3) | 入学を検討している（n=11） | 進学する可能性は低い（n=50） | 入学しない (n=46) |
|---|---|---|---|---|
| 教員の指導力 | 3 (100.0%) | 5 (45.5%) | 30 (60.0%) | 26 (56.5%) |
| 教員の専門性の高さ | 3 (100.0%) | 3 (27.3%) | 34 (68.0%) | 29 (63.0%) |
| 学費 | 3 (100.0%) | 5 (45.5%) | 22 (44.0%) | 7 (15.2%) |
| 奨学金 | 2 (66.7%) | 1 (9.1%) | 4 (8.0%) | 2 (4.3%) |
| 夜間の講義実施 | 1 (33.3%) | 3 (27.3%) | 22 (44.0%) | 6 (13.0%) |
| 研究設備 | 0 (0%) | 3 (27.3%) | 12 (24.0%) | 3 (6.5%) |
| 学習環境 | 0 (0%) | 1 (9.1%) | 13 (26.0%) | 5 (10.9%) |
| 大学のブランド力 | 0 (0%) | 0 (0%) | 10 (20.0%) | 7 (15.2%) |
| 講義の内容 | 0 (0%) | 0 (0%) | 4 (8.0%) | 4 (8.7%) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 無回答・不明 | 0 (0%) | 0 (0%) | 6 (12.0%) | 10 (21.7%) |

IV. 追加調査の結果

対象：28 名（理学療法学専攻修士課程修了者 24 名、理学療法学修士課程 2 年生 4 名）

回答数：20 件（回答率：71.4%）

表 15）高崎健康福祉大学 大学院博士課程への入学希望者（n=20),%(人数)

| ぜひ入学したい | 入学を検討している | 入学する可能性は低い | 入学しない |
|---|---|---|---|
| 35.0(7) | 55.0(11) | 10.0(2) | 0(0) |

前回調査時には、当学で修士課程を修了した者のうち、回答が得られたのは 11 名のみであったが、今回は 20 名と約 2 倍の回答数を得ている。博士課程への入学希望については、「ぜひ入学したい」および「入学を検討している」と回答した者が全体の 90%（7 名＋11 名）を占め、特に博士課程設置に対する高い関心が確認された（表 15)。この結果は、前回調査時未回答だった者のうち、「ぜひ入学したい」と回答した者と、前回調査時は「入学を検討している」と回答していた者の一部が、今回の追加調査では「ぜひ入学したい」との希望に移行した可能性が考えられる。**現時点で修了生および修士課程 2 年在学生のうち、計 7 名が「ぜひ入学したい」と回答しており、入学希望者が 2 名の定員を大幅に超えている。今後も当学修士課程（博士前期課程）修了生および学部卒業生から、博士課程への安定的な入学希望者を確保できることが予測される。これらの結果は、博士課程設置に対する実質的なニーズと継続的な充足可能性を示唆している。**

表 16)高崎健康福祉大学大学院の強みに関する認識の入学希望別集計

| | ぜひ入学したい (n=7) | 入学を検討している（n=11） | 進学する可能性は低い（n=1） | 入学しない (n=0) |
|---|---|---|---|---|
| 教員の指導力 | 7 (100.0%) | 9 (81.8%) | 1 (100.0%) | － |
| 教員の専門性の高さ | 7 (100.0%) | 10 (90.9%) | 1 (100.0%) | － |
| 学費 | 6 (85.7%) | 8 (72.7%) | － | － |
| 奨学金 | 2 (28.6%) | 3 (27.3%) | － | － |
| 夜間の講義実施 | 4 (57.1%) | 7 (63.6%) | 1 (100.0%) | － |
| 研究設備 | 5 (71.4%) | 6 (54.5%) | － | － |
| 学習環境 | 3 (42.9%) | 6 (54.5%) | 1 (100.0%) | － |
| 大学のブランド力 | 4 (57.1%) | 6 (54.5%) | － | － |
| 講義の内容 | 2 (28.6%) | 4 (36.4%) | － | － |
| 無回答・不明 | － | － | － | － |

表 17)高崎健康福祉大学大学院の課題に関する認識の入学希望別集計

| | ぜひ入学したい (n=7) | 入学を検討している（n=11） | 進学する可能性は低い（n=1） | 入学しない (n=0) |
|---|---|---|---|---|
| 教員の指導力 | 0 (0%) | 1 (9.1%) | 0 (0%) | － |
| 教員の専門性の高さ | 0 (0%) | 0 (0%) | 0 (0%) | － |
| 学費 | 0 (0%) | 2 (18.2%) | 0 (0%) | － |
| 奨学金 | 1 (14.3%) | 3 (27.3%) | 0 (0%) | － |
| 夜間の講義実施 | 0 (0%) | 0 (0%) | 0 (0%) | － |
| 研究設備 | 3 (42.9%) | 4 (36.4%) | 0 (0%) | － |
| 学習環境 | 3 (42.9%) | 4 (36.4%) | 0 (0%) | － |
| 大学のブランド力 | 3 (42.9%) | 5 (45.5%) | 0 (0%) | － |
| 講義の内容 | 1 (14.3%) | 3 (27.3%) | 0 (0%) | － |
| 無回答・不明 | 0 (0%) | 1 (9.1%) | 1 (100.0%) | － |

**1. 強みの認識（表 16）**

博士課程への進学希望の有無にかかわらず、「教員の指導力」および「教員の専門性の高さ」は、いずれの群においても非常に高く評価された。特に「ぜひ入学したい」と回答した群（n=7）では全員がこれらを挙げており（100%）、同様に「入学を検討している」と回答した群（n=11）でもそれぞれ 81.8%、90.9%が挙げていた。これは、教育・研究指導体制が大学院の大きな魅力として認識されていることを示している。

加えて、「学費の負担が比較的低いこと」「夜間の講義実施」「研究設備」「学習環境」なども一定の割合で強みとして挙げられており、多様な就学支援体制や柔軟な学修環境に対する評価も確認された。

**2. 課題の認識（表 17）**

一方で、課題としては「研究設備」「学習環境」「大学のブランド力」がやや多く挙げられた。特に「ぜひ入学したい」と回答した群でも「研究設備」および「学習環境」「大学のブランド力」を課題とする回答が 42.9%に上っており、入学希望の高い層において教育研究環境の一層の整備・充実が期待されるとともに、入学する大学院の実績を自ら作り上げていく意欲とも解釈できる。

また「奨学金」「学費」「講義の内容」についても一部で課題として挙げられており、経済的支援の拡充を内部質保証の課題としていく。

**３．当学の強みと課題を踏まえた入学者数の見込み**

今回の追加調査結果を踏まえると、高崎健康福祉大学大学院博士課程に対しては、**「教員の教育・研究指導力」および「専門性の高さ」が圧倒的に高く評価されており、これは進学希望の高い層においても一**

**貫して認識されていた。**実際、強みとしてこれらを挙げた割合が 90%以上に達しているのに対し、これらを課題として挙げた回答はほとんどみられず（いずれも 0～9%程度）、**「教員体制に対する評価の安定性と信頼感の高さ」が示された。**

一方で、「研究設備」「学習環境」「大学のブランド力」といったハード面およびブランド力については、一部の入学希望者から課題として挙げられており、特に進学希望の高い層においても一定数（約 40%前後）が今後の改善を期待していることがうかがえた。ただし、これらの項目についても、強みとして挙げた人数の方が課題として挙げた人数を概ね上回っており、現状において一定の評価を得ており、大学全体での課題として内部質保証体制を通して改善を行い、サステーナブルな入学者数を期待できる。

また、学費や奨学金、講義内容といった項目についても課題として挙げた者は一部に限られており、これらの項目に関しても「大きな不満は少数にとどまるが、今後の改善余地は残されている」という状況と整理できる。総じて、本学大学院博士課程は、**「教員体制の質の高さ」という強固な基盤を有しており、環境面や支援体制の整備を進めることで、さらに進学希望者の安定的な確保と教育研究の質向上が期待できる段階にある**と位置付けられる。